



2020年11月

第305号

The Service Club of The YMCA

## 東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 花輪 宗命  
 副会長 山本 英次  
 書記 長谷川あや子  
 会計 小口 多津子  
 直前会長 並木 信一  
 担当主事 中里 敦  
 プリテン 山本 英次・茂木 稔  
 大久保 重子

国際会長 Jacob Kristensen(デンマーク) 主題 価値観、エクステンション、リーダーシップ スローガン「命の川を信じよう」  
 アジア太平洋地域会長 David Lua(シンガポール) 主題:「変化をもたらそう」  
 スローガン:「奮い立たせよう」  
 東日本区理事 板村 哲也(東京武蔵野多摩) 主題:「変化を楽しもう」  
 副題:「助け合い、分かち合い」  
 あずさ部部長 御園生 好子(東京サンライズ) 主題:「変わるに挑戦!」  
 クラブ会長 花輪 宗命 主題:「すべてに感謝」

### 11月例会プログラム

#### (Zoom システムによる例会)

(担当:A班 :小口、長谷川、中里、菅野)  
 日時:11月14日(土) 18:00~20:30  
 会場:八王子市北野事務所 2F 大会議室  
 受付:菅野、小口  
 Zoom 担当:中里  
 司会:小口  
 開会点鐘 花輪会長  
 ワイズソング 一同  
 ワイズの信条 一同  
 聖句朗読・感謝 長谷川  
 ゲスト・ビジター紹介 花輪会長  
 卓話:郷 進太郎 氏(すぴーど)

YMCA 西東京コミュニティーセンター・スタッフ  
 「球磨村災害支援報告」

東京 YMCA 報告 担当主事・中里  
 連絡絡事項 花輪会長  
 A Happy Birthday 花輪会長  
 スマイル 菅野  
 閉会点鐘 花輪会長  
 終了後に会食

### 巻頭言

#### 第24回あずさ部部大会

長谷川あや子

コロナ禍はまだ収まらない状況でしたが、10月17日、高尾の森わくわくビレッジで第24回あずさ部部大会が予定通り開催されました。ここに至るまで御園生部長はじめ部スタッフ、ホストクラブのサンライズの皆さんのご苦勞、お気遣いは大変なものだったと思います。お聞きすれば昨年の11月より会場探しをされ、決められていたにもかかわらず、コロナのお陰で予定の会場をキャンセルし改めての模索だったようです。そして急遽、高尾の森わくわくビレッジに決め、八王子クラブの8月例会にご参加、わくわくビレッジとの打ち合わせをされたのは皆さんご存知の通りです。

7月の第1回評議会はやむなく中止となりましたので、部大

#### 先月の例会ポイント (10月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	1000g
メン	11名	累計	1607g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	85%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	10,150円
ゲスト	2名	累計	86,773円
ビジター	2名	オークション	0円
ひつじぐも	2名	累計	0円

#### 今月の聖句(2020年11月)

そこで、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らし、やがて言った。『こうしよう。倉を壊し、もっと大きいのを建て、そこで穀物や蓄えを全部しまいで、自分の魂にこう言うてやるのだ。『魂よ、この先何年もの蓄えができたぞ。さあ安心して、食べて飲んで楽しめ。』』しかし、神はその人に言われた。『愚かな者よ、今夜、お前の魂はとりあげられる。お前の用意したものは、一体誰のものになるのか。』自分のために富を積んでも、神のために豊かにならない者はこのとおりだ。」

(新約聖書・ルカによる福音書 12:16~21)

会があずさ部としては初めての顔合わせとなりました。

当日は朝から冷たい雨が降り続き季節外れの寒さとなりましたが、12 時頃会場に着くと、あちらこちらに知った方がいらして何だかとても懐かしく嬉しくなりました。開催にあたっては三密を避けるため、沢山の規制の中で本当によく計画を練って下さり、創意工夫に富んだプログラムでした。

開会点鐘の後、部長挨拶が終わるとすぐに会食でした。乾杯の発声は次期部長という習わしですので私の出番でした。次期部長としての初仕事を務めました。

板村東日本区理事のお祝辞の次に田中直前アジア太平洋地域会長から国際表彰があり、昨年度、会員が二人以上増えたクラブとして並木直前会長も武蔵野多摩やたんぼぼクラブの方とともに表彰されました。

そして東日本区次々期理事の佐藤重良メン(甲府 21 クラブ)が紹介され、力強い決意を述べられました。あずさ部としてとても誇らしいことです。出来るだけの応援をいたしましょう。

6 月の東日本区大会のアピールの後閉会点鐘があり、その後はお楽しみタイム①音楽室—浅羽さんとその仲間のジャズ演奏 ②—紙芝居、米長晴信さんのマジックショー ③—東さんの駄菓子屋さんがあり童心に還って楽しみました。

関東東部の皆さんの友情出演です。部を越えた協力っていいですね。

CS 事業主査の望月喜代子さん(富士五湖クラブ)が手作りのマスクを実費でわけて下さり大いに助かりました。老人会のためにご自分のポケットマネーで沢山買われた方もいらっしゃいました。

心が温かくなるそんな部大会でしたが、クラブからは花輪会長始め9名で参加いたしました。来年は八王子クラブが担当です。頑張りましょう！

## ZOOM 卓話を終えて

並木 真

10 月の例会では、私の拙い話をお聞き頂き、誠にありがとうございました。初めての ZOOM を使ったハイブリッド例会でした。何より、このコロナ禍で例会に出席出来ない、中大ひつじぐもの川村拓さんや、渡辺伊純さんがそれぞれの場所からリモート参加して下さい、久しぶりにお互い顔を見ながらお話しが出来たことが嬉しかったです。また、東京多摩みなみクラブから深尾香子会長、石田孝次ワイズ、埼玉クラブから衣笠輝夫ワイズがリモートでご参加下さったことは、交流の新しい可能性を肌で感じる事が出来たのではないのでしょうか。東京多摩みなみクラブの藤田智ワイズは、リモートかと思ったら会場にご夫婦でいらして下さい(娘さんを連れてこられたかと思いました)、とてもびっくりしましたし、テレビで見ていた NHK「やさいの時間」の藤田先生が目の前にいらっしやるなんて、何だかとても不思議な気持ちになりました。直接お会いしご挨拶出来て、とても嬉しかったです。

今回、私の仕事の「種苗業」についてお話をさせて頂いたことは、とてもありがたいことでした。どの業界でもその業界の常識があり、それを知るとさらに関心が深まります。お聞き頂いた皆様に、種の袋の裏に記載してある意味や「〇〇交配」などの意味をお話しさせて頂き、より興味を持って頂けたらうれしいです。そして、私の話が野菜を育てるヒントになりましたら、とても嬉しいことです。今回、最後の方でお話させて頂いたマルチングや、植えた後の水やり、トマトや胡瓜の枝摘みの話は、野菜生産を生業とする生産者に向けての講習会でお話していた事です。

最後に、八王子クラブとして初めて zoom を使ったハイブリッド例会を行えたのは、中里さんの働きがなければ出来ませんでした。本当に、ありがとうございました。



あずさ部大会にて 会員増強クラブ表彰



Zoom 例会 (並木 真) :

## 高尾わくわくヴィレッジ便り

館長 菅野牧夫

10月に入りわくわくヴィレッジも秋の装いを増してまいりました。先日ニュースでナラ枯れの話が出ていました。虫がなら、しい、かしなどの木に菌を運んできてその木を枯らしてしまうのです。わくわくヴィレッジの森にもどうやらこの虫が侵入してしまったようで、現在確認が取れているところで2本ナラの木が枯れてしまいました。これからどう対処していくか検討中です。森が無くならないことを祈っています。

11月例会の予定を見ておりましたら、西東京コミュニティセンターの郷さんが球磨村災害支援について卓話をするという情報が出ていました。実はわくわくヴィレッジからも9月の末から2名のスタッフを多良木の避難所運営に派遣をしていました。わくわくヴィレッジは八王子地域の一時避難所に指定されています。昨年の台風では地域の住民がわくわくヴィレッジに自主避難をし、総勢160名強の方々が宿泊室や体育室で台風が通り過ぎるのを待ちました。我々にとっても避難所になる経験は初めてで、何が必要で、何が不要なのかということを探りながら行っていました。今回の被災地支援では避難所運営のノウハウを学ぶという意味を持って派遣しました。

彼らが行った避難所は開所から期間もたち物資については有り余るようになってきているそうです。長期的な避難生活になると心のケアの部分が重要になってくると感じたようです。大変な思いをしてきた被災者の皆さんが思ったより明るかったことが救いだったということでした。YMCAと一緒に活動していたピースボート災害支援センターから写真を提供いただきましたのでご覧ください。お弁当を配っているのはわくわくヴィレッジの平中君です。



## 西東京センター便り・10月

YMCA 西東京 センター長 中里 敦

少しずつ冬らしい季節となってきました。今年のアドヴェントは11月29日です。神様を一番身近に感じる時期でもありません。

今年も東京 YMCA インターナショナル・チャリティーランにご支援いただきありがとうございます。おかげさまで、あおぞら・つばさの会のメンバーがリーダーと一緒に参加することができました。障がい児者は支援をされる側ではなく、ともにチャリティーランを作り上げる参画者となれることに大きな意義を感じます。

この「あおぞら・つばさの会」は知的障がい児者活動として41年前から続き、次の3つを目的としています。「参加者の余暇生活の充実や社会参加の実現のために」「家族の方がゆとりを持てるように(レスパイとケア)」「活動に関わる人たちが障がいの理解を深めるために」です。日曜日に大学生や社会人ボランティアとともに街散策、クッキングなどを楽しんでいます。余暇が充実することで日常生活も豊かになることを願っています。また、保護者も子どもたちが YMCA で楽しい時間を過ごすことで、ゆとりを持って楽しい時間をともに過ごすことができます。そして、ボランティアリーダーの成長にも大きく寄与しています。障がいを知らないと特別視したり、差別へとつながります。しかし、ともに過ごすことで障がいの理解が深まり、同じ人間としてこの社会を作っていることを感じるができます。ここに専門家ではないボランティアが関わる理由があり、人との関わりを深め、楽しむことで広い視野を持った心豊かな社会人となっていきます。この活動は支援する、される立場ではなく、ともに生きることを学べる場でもあります。その点でもチャリティーランに参加できることは大きな意味があります。改めて感謝申し上げます。

### 今月の聖句によせて (2020年11月)

1620年、宗教的に抑圧され、本国を逃れ、メイフラワー号で2カ月もかけて太平洋を渡ったピューリタン(清教徒)達がアメリカに着いたのは、季節はこれから冬に向かう、9月6日だったということです。男性78名、女性24名の入植者(ピルグリム・ファーザーズと呼ばれる)たちに提供された土地はただ広いだけの荒地。木を伐り、丸太小屋の住居と教会を建て、土を耕し、農耕をはじめました。しかし、新しい土地に合わない種子、慣れない農作業のため、この年の収穫は乏しく、飢えと寒さのため、翌年の春を迎えられたのは入植者の約半数だけという過酷な生活であったといわれます。春を迎え、冬の間に親しくなった原住民の人々によって、穀物の蒔き方、育て方を教えられ、秋には豊かな収穫がありました。人々は教会に集まり恵みをもたらしてくれた神様に感謝の礼拝を捧げ、また、原住民の人々を家庭に招いて感謝の食事を共にしたということです。

このことを記念して、1864年、アメリカのリンカーン大統領は11月の第4木曜日を豊かな恵みに感謝しつつ、互いに分かち合うことの大切さを覚える、国の祝日と決めました。日本の多くのキリスト教系の保育園、幼稚園等ではこの時期に、感謝と分かち合いの心を育てるため、家庭から持ち寄った果物など食物をもって、日頃お世話になっている交番や、消防署、交わりのある高齢者施設等を訪問しています。また、キリスト教会の多くは、11月の第4日曜日に収穫感謝礼拝を行うのを通例としています。

しかし、コロナ禍にある今年、このようなプログラムの多くも例年通りには出来ないようです。他方、日々の食物に困っている人々に食物を届ける働きをしているボランティア団体のフードバンク等には、例年になく多くの食物配布の希望が寄せられているということです。

並木信一

## 中大ひつじぐも便り

中大 ひつじぐも 渡辺伊純

日増しに秋が深まり、朝晩は肌寒さを感じることも多くなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私は相変わらず、徳島の実家でオンライン授業を受けながら、資格試験の勉強や愛犬との散歩をしながら毎日過ごしています。

先日は例会へのオンライン参加の機会をつくってくださり、誠にありがとうございました。並木様の「種と野菜の話をしよう」という卓話では、日本の農業の現状や、野菜栽培のコツを知ることができ大変興味深いお話でした。地球温暖化による平均気温の上昇や、異常気象による降水量の変化により農作物の不作や、値段の高騰が懸念されている状況でもありますので、これからますます家庭での野菜栽培が注目され、同時に種苗の需要も高まるだろうと私は思います。私も、実家の庭で水菜やベビーリーフをプランターで栽培しています。害虫の被害は避けられませんが、農薬を使っていない野菜はとても新鮮で安心して食べることができます。並木さんが、野菜栽培のミニ講習で教えてくださったコツを活かして新鮮な野菜を今後も家庭で作りたいと思っています。

また、例会では、ワイズメンズクラブ皆様の明るくて優しい雰囲気懐かしさを感じました。新型コロナウイルスが流行し、ソーシャルディスタンスといった距離が保たれ、大学の授業もオンラインに変わるなど、以前の生活とは一変した日常になってしまいましたが、皆さまは相変わらず親切に接して下さり心が温かくなりました。感染状況は未だ良くなったとは言いがたく、まだまだ気の抜けない日常ではありますが、皆様のような優しい心を忘れずにいたいと思います。

これからの季節、冷え込みが一層厳しくなりますので、くれぐれもお身体にお気をつけください。

## 今月の例会報告 10月度

〈報告〉

2020年10月第一例会

日時:2020年10月10日(土)18:00~20:00

会場:北野事務所大会議室(担当C班)

出席:大久保・久保田・小口・中里・並木信一・並木真・長谷川・花輪・福田・茂木・山本 ネット:久保田・並木

ビジター:藤田智・恵美(多摩みなみクラブ)

ゲスト:酢屋善元・津田敬久 以上17名

Zoom参加:衣笠輝夫(埼玉)・石田孝次(多摩みなみ)・

川村拓・渡辺伊純(中大ひつじぐも)

卓話:「種と野菜の話をしよう」並木真メン

☆ 感謝:元会員の津田敬久さんが今年も「使用済み切手」1kgを当クラブに寄付して下さいました。

・甲府21クラブ30周年例会はクラブ代表花輪会長が出席。

2020年10月第二例会

日時:2020年10月24日(土)18:00~19:15

会場:北野事務所小会議室①(担当C班)

出席:小口・長谷川・久保田・花輪・中里・並木信一・並木真・茂木・山本(9名)

A 報告

あずさ部大会:10月17日13時~16時高尾の森わくわく

出席:花輪・久保田・小口・中里・並木信一・並木真・長谷川・山本(8名)

B 協議

・11月第一例会:11月14日(土)18時~20時

北野事務所大会議室・ハイブレッド例会とする。

卓話「球磨村災害支援報告」郷 進太郎さん

## 2020 インターナショナル・チャリティーランは

小口多津子

障がいのある子ども達の為にを目的とするチャリティーランは、今年はコロナ禍のため、これまでと違って、ウォーキング形式となりました。10月24日から11月1日までの間にスマホアプリを使って各チームで歩いた距離や歩数を競うのです。全43チーム、約700人が歩きます。これには沢山の企業もいつものように支援し、参加しています。

今回も、YMCA 西東京センターの子ども達が参加するという事で、1チームエントリーへ支援の輪が西東京センターを囲む、3つのワイズメンズクラブで応援をしようと、話し合いで決まりました。東京多摩みなみクラブ、東京武蔵野多摩クラブと東京八王子クラブの協働でされました。

子ども達への応援が、3クラブ協働の輪になった、初めてのことでした。

西東京センターのチーム名は「TEAM24」。この24は言うまでもなく、「西」を意味します。西東京センターの「あおぞら・つばさの会」の参加者とリーダーさんと来ています。YMCA マールマガジンによりますと、次の事が、西東京センターの「目的」と記されてありました。

「歩き方/モットー:「秋空の下でのびのびと」

私たちは日ごろから「ともに生きる」とはどういうことか、という視点を持ちながら活動をしています。「互いに認め合い、高め合う」社会について、改めて問い直す9日間を目指します。」

終わってからの報告を楽しみに待ちたいと思いました。

## 11月の誕生日

中里	孝子	さん	11月	1日
福田	勝江	さん	11月	11日
花輪	豊子	さん	11月	12日
山本	英次	さん	11月	26日